緊急救援 トルコ大地震・これまでの流れ('99年11月～)

1999年8月～10月	11月	12月	2000年1月-3月	4月～2001年12月
これまでの流れ(～99年10月)	11月11日 11月13日 11月14日 11月16日 11月18日 11月20日 第4次先発隊出発(11.27) 11月25日 11月27日 11月29日	第4次派遣団出発(12.3) 12月3日 第4次派遣団帰国(12.10)	1月10日 1月15日 1月26日 1月31日 2月20日 3月24日	4月17日(1) 4月17日(2) 5月11日 5月19日 5月31日 6月28日 8月15日 8月18日 8月29日 12月19日 2001年1月9日 12月28日 現在の状況

■2001年12月28日

<「草地文化センター」完成！>

皆さま、ご無沙汰しております。トルコ北西部地震より2年が過ぎました。当委員会は、デリンジェ市とデュズジェ市を中心に支援プロジェクトを展開し、この間5回のスタッフ派遣を行い進捗状況の確認を行ってきました。その中1つに、デリンジェ市の「草地文化センター」の建設支援があります。1999年12月に支援を決定し、その翌年2000年には完成する見込みでしたが、トルコ全土を襲った経済危機の余波を受け建設工事は大幅に遅れました。しかしながら、先日デリンジェ市より12月中には完成するという報告がありました。

<「草地文化センター」とは・・・>

デリンジェ市「市民文化センター」が1999年8月17日トルコ北西部地震によって全壊しました。以前から市民の集う「場」として中心的機能を果たしていたこのセンターを1日も早く再建することが、被災者であるデリンジェ市民に希望を与えることになると現地関係者と合意しました。また、草地賢一さんが「完成後の運営は、デリンジェ市主導ではなく、市民と一緒になって運営方法を考えていくこと。」を提案し、アフメット助役を中心としたデリンジェ市側も了解し、1999年12月に支援を決定しました。
支援決定後、KOBEの経験を伝えデリンジェ市と深い信頼関係を築いた草地賢一さんが亡くなり、デリンジェ市の中でも特に草地さんと親交のあったアフメット助役のたっての希望もあり「草地文化センター」に名前が変わりました。2階建てで、中央に大きなホールがありここで結婚式なども開かれます。中央ホールを挟んでコンピューター教室や手芸教室、子どもの部屋など日常的に市民が集える部屋が用意されています。

<視察ツアー案内>

デリンジェ市草地文化センターの完成を記念して、デリンジェ市を中心にマルマラ地震より2年を過ぎたトルコへ視察を行います。トルコ航空にて2月11日に出発して2月18日朝帰国予定です。
草地文化センターのオープニングセレモニーに参加して、KOBEの仮設住宅が立ち並ぶアダパザルの日本トルコ村仮設、ギョルジュックそしてデュズジェなどの被災地を見学する予定です。
航空チケット、宿泊費、トルコ国内旅費など諸費用は、約20万円(食事代は別途)かかります。この機会に、ぜひトルコを訪問したいと思っている方は、事務局までお申し出下さい。
年末年始のお忙しい中、誠に恐縮ですが、チケット発券の都合上この視察への参加申し込み締め切りは来年1月12日(土)とさせていただきます。

■2001年1月9日<トルコの復興住宅事情>

◎デュズジェでは・・・

来日経験のあるオーズハン氏とアルパッサン氏の2人が、12月23日雪の降る中デュズジェに行ってきました。前回でもお伝えしたように、デュズジェにおいては震災から1年を経った今でもテント生活を余儀なくしている人が居ます。
しかしながら、中心地から少し離れたところではいわゆる復興住宅(恒久住宅)の建設が始まっているようです。現在のところは8つのグループに分けて建設を行っています。一番少ないヶ所で462戸。一番多いヶ所で556戸。全部で3,928戸の建設が進んでいます。早いところでは、今月中に抽選により入居が始まります。

◎アダパザルでは・・・

今回のマルマラ地震で、一番被害の大きかったと言われれるアダパザルでは、復興住宅の建設や行政機関等の移転も考えた「新都市構想」がKARAMAN・CAMILI・FERIZLIの3地区で行われています。その中のKARAMAN地区の情報を報告します。
アダパザル市内から車で北へ約20分くらいのところにKARAMAN地区があります。この地区は主に住居と商店から成り立ちます。10月末の情報で建設終了、建設中の住居は3,756戸。その中の2,202戸はトルコ政府からの資金で、残りの1,554戸はコンヤ県、カイセリ県など近隣の県からの無償援助によって建設されています。最終的に6,000の住居と1,500の商店になる予定です。
このKARAMAN地区と隣り合ってCAMILI地区があり、この地区は県庁などすべての行政機関が入るようです。CAMILI地区は、世界銀行からの資金援助を得て建設が行われています。
この3地区に対する入居の条件は、地震により持ち家が全壊した人が対象で、TL6,000,000,000(約1,035,000円)を20年のローンで毎月払っていくか、自分で家を探して契約した段階でTL6,000,000,000を 支払ってもらうか2つの方法があります。
デュズジェ同様アダパザルでも、今月中に抽選が行われ入居が始まります。

事務局より、トルコの地震から、1年が過ぎ以前のようになかなか現地の情報が入ってきません。支援プロジェクトに関わらず、できる限り現地から情報をとり、トルコの復興の様子を皆様にお伝えしていきたいと思いますので、今後もよろしくお願いいたします。

■12月19日

<草地文化センター工事着々！>

デリンジェ市に建設中の「草地文化センター」、当初の予定では今年中の完成が見込まれていましたが、完成は来年の3月となりそうです。
同市助役であるアフメット氏に話を伺ったところ、市が主体となった建設ではありますが、今年1月に急逝した草地賢一氏の遺志が受け継がれていることが伝わってきました。
まず、建設地は、もともとはテント村でした。その住民達を強制撤去ではなく、住民の方と話し合って転居先を斡旋していきました。
建設に関わる業者ですが、アフメット氏曰く「早く完成させようと思ったら出来ないこともなかったが、デリンジェ市の業者にやって欲しかった。業者選びにも時間がかかった。」とのことでした。
この2点が、結果的には建設を遅らせる原因となりましたが、建設段階から「デリンジェ市住民のための文化センター」という住民を意識したことで、完成後の利用についても大いに期待が持てるものとなりそうです。工事の方は、毎日休みなく行われ、見るたびにその迫力は大きくなります。
敷地面積1，250m²。鉄筋2階建て。中央が大きな吹き抜けのサロンとなり両サイドに、女性の人たちが手工芸品を作れる部屋や子どもたちの部屋、市民団体の部屋、コンピューター教室の部屋等々「文化センター」の名に相応しい利用法が予定されています。また、当委員会としてモニターを継続して行うことが、今後世界各地で起こりうる自然災害の支援を行う上でモデルケースとなるのではと感じました。
また、アフメット氏はじめ同市長より、「今回のNGOKOBEの支援により、デリンジェ市は日本との交流ができた。是非、完成後には日本の伝統的なものを文化センターの中に飾りたい。」とのことでした。

<デュズジェでは・・・>

NGOKOBEのもう一つの支援先であるデュズジェでは、2度目の冬をテントで迎える人たちが1，000世帯ほどいると言われています。
第5テント村で運営を行っていたフワット氏もテント暮らしをしていました。以前からお伝えしていますテキスタイル工場の運営を計画している人です。お互いの連絡調整がうまく行かず、委員会として「テキスタイル工場」への支援についても、協議を継続して行っています。フワット氏はテント暮らしをしている人や、被災者の多くは未だ失業している人が多いとのことです。少しでも、その人達に仕事に就くチャンスを与えたいとのことです。もちろん、フワット氏自身も定職には就いていないわけですが、この工場運営を機会に収益の一部を市民団体結成の資金にして、市民団体をつくりNGOKOBEのように世界で起こった様々な問題に支援していきたいと言うことでした。

<「トルコ＝KOBE被災地の子どもの交流の旅」実行委員会より>～8月29日

以前よりお伝えしておりました、デリンジェ市「愛と望みのテント」の子どもたちを含む総勢22名が、8月21日来日して28日に無事に帰国の途につきました。来日中の様子を簡単ではありますが、報告させていただきます。

8月21日　到着、神戸新聞・兵庫県庁訪問
8月22日　海洋博物館・震災モニュメントパーク・王子動物園訪問
8月23日～8月25日　YMCA余島にてKOBEより小中学生8名とキャンプ交流
8月26日　県民会館にて「トルコ＝KOBE子ども文化交流会」出演
8月27日　玩具博物館・姫路城訪問
8月28日　帰国

1番の変わったことは、彼女たちは「愛と望みのテント」という名称ではなく現在は「連合子どもクラブ」として活動していることでした。
来日中、天候にも恵まれ、トルコにはない日本独特の湿気に初めは「暑い暑い」を連呼していましたが、日増しにいつものトルコで見せる元気な彼女たちに戻っていきました。

23日～25日の余島でのキャンプや26日の文化交流会においては、KOBE・トルコどちらとも子どもならではの適応力の早さで、通訳を交いせずでもお互いが「身振り手振りで」交流をしていました。

26日の県民会館での「トルコ＝KOBE子ども文化交流会」では、150名ほどの方が見に来てくださいました。神戸市北区より参加していただいた「はたっこ太鼓」や彼女たちのダンスやトルコ語での劇を交えての約3時間にも及ぶショーは、「国・民族・宗教」を越えた素晴らしい「文化交流会」であったと思います。

来日した子どもの全てが、飛行機はもちろん海外に出るのは初めてと聞きました。この一週間で彼女たちが「何を感じたか？」じっくりと聞くことはできませんでしたが、初めてづくしのことに驚きは隠せなかったと思います。一緒に来日した、デリンジェ市助役のアフメット氏が「この経験を自分たちのものだけにしないで、デリンジェ市はもちろんトルコの子どもたち全てに伝えて欲しい。」と何度も子どもたちに言っていました。私たちも今後の彼女たちのトルコでの活動に期待したいと思います。
もちろん「トルコ北西部地震・緊急救援委員会」としては、第3次派遣団で決定したように今後も彼女たちを見守り続けます。

今回、「トルコ北西部地震・緊急救援委員会」から「トルコ＝KOBE被災地の子どもの交流の旅実行委員会」形式を取りましたが、委員会加盟団体の皆様、その他関係各所に協力頂いた皆様にこの場を借りてお礼を申し上げます。

追伸：大阪の稲本隆夫さんが文化交流会の様子をご自分のホームページでレポートして下さっていますので、紹介させていただきます。「冬のトルコ独り占め」というページの中に「地震について」というサイトがあり、その中で「トルコ＝KOBE子供文化交流会」として、多くの写真や当日の感想を交えて紹介しておられます。→ここからスタート!!

■事務局より(8月18日)

早いもので、昨日でトルコ地震発生から丸一年を迎えました。あわせて、この委員会NEWSも、最近は頻度が落ちましたが、今回で50報を迎えました。前々回お伝えしていますが、事務局からJICAの専門家として「トルコ日本村仮設」のコミュニティー支援に入っている鈴木隆太より、地震より一年を迎えたトルコの様子が入りましたので、紹介させていただきます。

今日は長い一日でした。

16日の夜11時ころ、なぜかホテルの従業員に「隆太、いくぞ」と言われ、通訳のアルカンさんと共にホテルを出て、ホテルから歩いて5分ほどにある「アタチュルク・ブルバル」という公園(サカリヤ県庁の真向かい)に行くと、すでにそこには大勢の人が公園の周りを歩いていたり、公園の中に座り込んでいたり、という状況でした。
公園の中に入って見ると、まずはトルコで法事の時などに配られるお菓子を配給していたり、大きなスクリーンに震災当時の状況を映して上映していたり、震災当時の写真展が開かれていたり、亡くなった学生の写真にロウソクを灯して追悼している家族がいたり、さらにその公園を進んでいくと大きな人だかりが出来ていて、正面には大きな舞台があり、そこでは大きな声で叫ぶ人々が……。
何か聞いてみると、震災当時の様子を一般市民が詩にして朗読している、とのこと。いろんな人が入れ替わり立ち代り詩を読んでいきました。
夜の1時ころになってくると、どこからともなくデモ行進が始まり、「行政はいらない！」ということを叫ぶ人々が出てきたかと思うと、今度は舞台で先ほどまで詩の朗読だったのがいつの間にか「私の主張」という感じの内容に変わっていて、そこでもまた「行政は何もしない」「私はイスタンブールから来た。あなたたちを応援している人が沢山いることを忘れないで」「アンカラにこの声を届けたい」などなど、主張の多くは行政への不満を表しているものでした。
地震発生時刻の3時2分が近づいて来るにつれ、人もだんだん多くなってきて、しまいには身動きできないほどの人が舞台を中心に広がっていき、皆が舞台の発言に一喜一憂しながら声をあげていました。
舞台から「黙祷」という声が聞こえた瞬間、一斉に静まり返ってみんなが黙祷を捧げました。
無秩序な喧騒が突如現れた、世界のすべての時が止まったかのような沈黙。
その後国歌斉唱が行われ、その後はイスラムのコーランが読まれました。アダパザル市の中心に集まった人々全員での祈り。
そして終了。
人々は各々家路に向かって歩き出していきました。
3時2分を迎えた瞬間の静寂はすごかった。
話声ひとつない、波をうったかのような沈黙。この瞬間は本当に鳥肌が立ちました。
それからは日常にもどり、お昼にはほとんどが片付けられていました。

KOBEの方達にそれぞれの1.17があるように、トルコの人たちにもそれぞれの8.17があります。事務局でも、日本時間の9時2分KOBEから追悼の意味を込めて、黙祷を捧げました。
まだまだ、トルコでの復興過程はKOBEを例に取れば、始まったばかりです。
今後も皆様のご協力をお願いいたします。

■事務局より(8月15日)

前回ご報告した、「愛と望みのテント」の子ども達を中心とするデリンジェ市の子ども達の来日ですが、下記のチラシにありますように、8月26日に県民会館で「文化交流会」を行いたいと思います。
委員会の皆様！ふるってご参加下さい!!

トルコ＝KOBE被災地の子どもたちの交流の旅
トルコ＝KOBE子ども文化交流会

昨年8月のトルコ大地震の被災地・デリンジェ市の子どもたちが、被災地の子ども同士の交流のためKOBEを訪れます。デリンジェ市は、震源地イズミット市の西隣の人口約15万人のまち。神戸のNGOを中心に全国各地の市民団体など約60団体で構成する「トルコ北西部地震・緊急救援委員会」が支援している地域です。「愛と望みのテント」(下記参照)の子どもたちを中心に、18人が来神します。
この「交流の旅」の一環として、下記の通りKOBEの子どもたちとの交流会を行いますので、お誘い合わせのうえ、ご参加ください。
文化交流会終了後、18時より神戸YMCAにて軽い食事を囲んで交流会を開催致します。会費3,000円となっております。参加ご希望の方は、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。(8月20日まで)

- と き＝8月26日(土)13時30分～16時30分
- ところ＝兵庫県民会館9階大ホール
- 内 容＝加納裕美さん(百番目のTシャツ)の歌
  はたっこ太鼓の演奏
  「愛と望みのテント」活動報告
  トルコの子どもたちの劇
  歌・民族舞踊 など
- 参加費＝無料(電話でお申し込みください)
- 定 員＝360人

主 催＝トルコ北西部地震・緊急救援委員会
「トルコ＝KOBE被災地の子どもたちの交流の旅」実行委員会

問い合わせ・申し込み＝被災地NGO協働センター TEL=078-574-0701 FAX=078-574-0702
※会場で、トルコ・台湾支援グッズの販売を行う予定です。

■来日決定!!(6月28日)

以前より、皆様にお伝えしておりました、デリンジェ市ヤブズスルタン地区の「愛と望みのテント」の子ども達の来日が決定しました!!「愛と望みのテント」の子ども達だけではということで、デリンジェ市助役アフメット氏のお力添えもあり、デリンジェ市内の10の学校に声をかけて、引率者3名子ども15人が来日します。日程は、8月21日～28日までの一週間です。
第3次派遣団が、彼女たちと出会ってから、第5次派遣団まで常に彼女たちの活動・行動に私たちは、驚いてきました。第4次派遣団が、訪問した際に歓迎のショーをしてくれた子ども達。そのショーが余りにも素晴らしく、日本でもやってもらおうと、今回の来日を企画しました。もちろん彼女たちの結成から現在に至るまでの活動報告もします。
予定では、ショーも皆様に見て頂こうと思っています。彼女たちも、今からショーの企画を練っているようです。日時・場所等正式に決まり次第、皆様には、ご連絡したいと思いますので、是非、見に来てください!!
企画をNKIに打診してから、決定するまで、少々時間がかかってしまい、企画原案は、常任委員を中心に作成しましたが、実行委員会を発足いたします。
実行委員として、協力していただける方は事務局の方までご一報下さい。

<事務局より>

「自然災害メーリングリスト」に登録されている方や、事務局の被災地NGO協働センターのホームページをすでにご覧の方は、「トルコ日本村仮設NEWS デュキュレデム」をご存知かと思います。
6月5日より、事務局被災地NGO協働センターの鈴木隆太が、JICAの専門家派遣として、「コミュニティーづくり支援事業」を行うためにトルコアダパザルの日本仮設村へ行っています。最終的には、KOBEからの仮設1,100戸が建ち並ぶこの日本仮設村での目的は「住民主導でのコミュニティーづくり」です。
毎日、現地より連絡が入りますが、通訳の確保が不充分なため体当たりでの活動を毎日展開しているようです。
現地からの情報をまとめて随時「トルコ日本村仮設NEWS デュキュレデム」として皆様にご報告しています。ご希望の方は事務局までご連絡下さい。

■事務局より(5月31日)

5月26日常任委員会が開かれました。以下、委員会で確認されたことを紹介させて頂きます。

1. **前回の常任委員会から支援プロジェクトの確認**
   - **デュズジェ支援プロジェクトの検討**(委員会NEWS46報より)
     →「デュズジェ復興委員会」から提案されたテキスタイル工場の建設について、
     費用は約8万ドルかかる。基本的に、支援するということで、合意されましたが、この金額が、工場だけのハード面のお金なのか、運営に関してのソフト面の費用も入っているのかなどをデュズジェに問い合わせ中。モニターの結果によっては、ソフト面の支援も今後検討する。例えば、デリンジェに出来る「草地文化センター(仮称)」のなかに、事業運営やマネジメントについての研修プログラムのようなものが可能であれば、デュズジェ・デリンジェの交流を兼ねた研修も考えられる。今回の提案は、大型プロジェクトのため、成功するためには、経営指導等の出来る現地の人材を探し、協力して貰うことがポイント。
     ＊6/5より被災地NGO協働センターの鈴木がトルコ入りするので、その際に状況確認を行う。その報告を受けて、8万ドルの振り込み手続きを行う。
   - **CCCの女性の村プロジェクト**
     →今までで、2回支援を行い、現在まで指定寄付が35万程残っている。オランダのNGOからの援助を得て、プロジェクトは進んでいる。村井委員長からも「これまで仮設での活動を視察してきたがすばらしい展開をしている。」という報告がなされた。
     このプロジェクトについても鈴木がモニターし、その上で支援の決定をすることが合意された。
   - **「草地文化センター」への追加支援**
     →着工が遅れたため、当初予定の夏に完成というのは、難しく秋頃(11月)の完成予定。前回、委員長村井がトルコに行った際に、アフメット氏(デリンジェ市助役)と話をし、アフメット氏が「当委員会がカウンターパートとしていたDEKMAK以外にもデリンジェにたくさんの市民団体が出来ることが望ましい」といっていたことから、今後出来る市民団体のための初動支援や自立プロジェクトの進捗状況を見て追加支援なども考えられる。
     ＊「草地文化センター」については、前回の常任委員会でも、こうした建設後のソフト面の支援について合意されていた。
   - **「草地文化センター」の竣工式**
     →竣工式には、委員会から2～3名派遣し、あわせて草地氏の家族にも参列して頂くことをお願いする。(その場合家族1人分の渡航費は委員会で負担する。)
   - **デリンジェの子ども達との交流企画**
     →現在、事務局YMCAから提案した日程予定(8/20～8/30)をアフメット氏に見てもらっている最中。こちらの予定としては、YMCA企画のキャンプを行い、日本の子ども達との交流や、第4次派遣団がデリンジェで見てきた、「劇」をみんなに見てもらうという企画を提案している。
2. **委員会の期間確認**(7月末からへの延長?)
   →1の報告にあるように、各支援プロジェクトがまだ終了していないことから、当委員会の活動期間を当面6ヶ月延長する。このことに関連して、今後の課題として協議したのは、「緊急救援」として立ち上がっても、慎重に慎重を重ね支援内容を決定するため、活動期間が長くなる。当然その過程で、中・長期的課題も新たに浮かび上がってくるため、資金に余裕があると、むしろそちらにウエートがかかる。(すでに、第2次派遣団の報告にも「中・長期をにらんだ支援の重要性」が報告されていた。)
   しかし、寄付をして下さる方は、「緊急」ということで支援して下さっていると推測できるので、これまではその都度、経過報告をし、常任委員会で協議・決定をしてきたものの、
   今後は、立ち上げ初期に「中・長期をにらんだ緊急支援である。」ことを説明した上で救援活動をスタートすることが必要であると確認されました。
3. **会計報告**
   →これらのプロジェクトに全て支援をしたとしても、資金が残った時には、その処理をどうするかについて協議しました。
   「寄付金の15%を上限に、事務局運営費等に充当する。」という件についてベネズエラ・中国・モザンビーク・モンゴルについては、各々の募金額が少ないため、事務局としては、事務費実費以外は要らないとの申し出がありましたが、常任委員会から「15%はとって、その中で今回のように事務費実費以外は要らないという場合は、事務局の判断でNGO災害救援を含めその後の災害のために繰り越していくという考え方があってもいいのでは。」という意見があり、常任委員会では基本的にはその方向で一致しましたが、みなさんにもご意見を伺いましょうということになりました。この件について、資金が残ったときには「各々の被災地の復興基金にしてはどうか？」という常任委員からの発言があり、それも含めてその時点で協議し、決定しましょう、となりました。
   従って、以下の点について関係者のみなさんにご意見をお伺いしたいと思いますので、よろしくお願い致します。15%の運営費についての処理は、事務局の判断に委ねる。
4. **その他日本村関連など**
   →JICA(国際協力事業団)の専門家派遣という形で、被災地NGO協働センターのスタッフがアダパザルの「トルコ・日本村仮設」のコミュニティーづくり支援事業を行うことが決定しました。(当面3ヵ月)
   これについては、トルコ緊急救援委員会の事業と直接関係がないのですが、今後この事業に委員会としても側面から支援することが確認されました。今、具体的に出ているのは、このプロジェクトのなかで「こどもの支援」というのがあり、この部分でさまざまなノウハウと人材を抱えている神戸YMCAのスタッフを中心に「心のケアー」を実施するために2～3名を「トルコ・日本村」に派遣する。ということです。(これについての「トルコ北西部地震・緊急救援委員会」の経費負担はありません。)
5. **今後の緊急委員会の口座について**
   →事務局を担っている被災地NGO協働センター会計より、災害救援の募金口座を分けたいという提案があり、独自の口座を設けることが確認されました。
   新しい口座名義は「災害救援委員会」(略称：災害救援)で手続きをします。
6. **その他**
   今回は、「トルコ北西部地震・緊急救援委員会」の常任委員会ですが、台湾支援やベネズエラ・中国。モザンビーク・モンゴルについても意見交換をしました。
   この内容については、後日メールまたはFAXなどでご報告致します。

■5月19日

<NKIより連絡が入りました!!>

デュズジェ第5テント村の移動状況と、5月11日付でお伝えした復興委員会による復興プログラムの詳細なものが入りましたので紹介させていただきます。

●テント村の状況
第5テント村はあと7、8家族を残すのみとなり、現在のテント村代表フワット氏も、デュズジェ市郊外のベイジレル・テント村へ移ったそうです。
第5テント村は結局、市内の4つのテント村に分散して解散するかたちとなりました。

5月11日付でマカデミアン・ナッツ販売、加工計画・テキスタイル産業計画やマッシュルーム、5月イチゴ、ハウス栽培計画を紹介しました。その中で、彼らの優先順位の高いマカデミアン・ナッツとテキスタイルの産業計画についての報告がありました。

●復興プログラム
マカデミアン・ナッツの加工工場を第1候補として考えます。マカデミアン・ナッツは、デュズジェの構造にふさわしく、原料も豊富だからです。しかし、財政面で見積りを出したところ、金額は、我々にとってかなりの額になりました。
次の選択肢として、テキスタイル工場の設営を考えました。
200平米のアトリエを設置し、15～20台のミシン、4～5台のアイロンを使って20人程度が働けるシャツ、ズボンの縫製作業所です。この施設でつくられたシャツ、ズボン等は仲間の協力により海外へ(主に イギリス、中央アジア、コーカサス諸国)輸出するルートも確保できそうです。

最終的には、当委員会の支援先である第5テント村は、分散する形となりました。しかし、テント村代表のフワット氏をはじめとして組織された復興委員会の上記の提案を受けて、これらの復興プログラムを常任委員会にかけまして、支援を決定していきたいと思います。皆様には、後日常任委員会からの報告を受けて委員会NEWSにてお知らせしていきたいと思います。

■5月11日

<NKIより連絡が入りました!!>

●デュズジェ編

今まで、ご紹介している第5テント村の代表であったカディル氏が、仕事に就いたため、現在は、フワット氏が代表となって、テント村の運営その他を切り盛りしているようです。
フワット氏からの報告によると、前号にてお伝えしたプロジェクトについて、具体的な調査、ペーパー化が進んでいるようです。また、テント村移動に伴い第5テント村だけの復興を考えるのではなく、デュズジェ全体の復興を考えたいと言うことで、実行委員会形式をとって決めていきたいとのことです。

●デリンジェ編

「草地文化センター(仮称)」の建設予定地であったテント村の住民も、デリンジェ市の斡旋によりそれぞれに移り住むことができ、「草地文化センター(仮称)」の建設が着工いたしました。予定通りに進んでいるようなので、秋頃には完成する見通しです。
常任委員会にて、今後のプロジェクトの1つとして挙がっていた、子ども達との交流企画。これについては、デリンジェ市助役アフメット氏、NKIの協力の下、夏への実現に向けて現在調整中です。

●ゆたんぽ編

第5次派遣団(2/7～2/27)にて、「ゆたんぽ大作戦」を展開し皆様にご協力を頂き、ゆたんぽ500個をトルコへ持って行きました。第5次派遣団報告書でも、お伝えしましたが、派遣中には「ゆたんぽ」を配ることができず、NKIに託してきました。
救援物資扱いになってしまったこと、個人宛の大量の荷物であったことなど、様々な事情が重なり受け取りは、難航していました。当初の目的デュズジェ第5テント村に配布というのは、無理でも、被災者の方に有効に使っていただくことを優先して、クズライの方に引き渡しました。
皆様にご報告が遅くなりましたことを、お詫び申し上げます。

■4月17日

<NKIより連絡が入りました!!>

デュズジェの第5テント村よりファックスが来て、NGOs KOBEに復興プランについて、協力要請がありました。

・デュズジェの近況について

第5テント村の引っ越しとしては、80張ほどテントがきたので、今週末にも順々に移動を開始する予定でいる。第5テント村としての最後の会議(4月20日)において、「NGOs KOBEとの支援活動を、テント村だけを支援するのではなく、デュズジェの町全体の復興のために、より広い範囲で考えていきたい」という点で全員一致したそうです。

・今後のプロジェクトについて

1. マカデミアン・ナッツの販売
   デュズジェの特産物であるマカデミアン・ナッツを地元の特産品として販売ルートにのせ、袋詰め工場、倉庫など、被災者職場確保のためにも新たに考えたい。しかし、県の農業事業課の協力を得ることはできたが、資金面での見通しがたっていない。
2. テキスタイル産業
   テント村内、またその近くに簡単なテキスタイル加工工場をつくって、被災者の職場を確保する。約20人が働けるものを考えている。用地の確保、ミシンの確保などは、見通しが立っているが、建設の費用についての見通しはたっていない。
3. マッシュルーム栽培
   県の農業課と共同で、マッシュルームの栽培工場、それを缶詰にするための施設について協議したところ、県からは用地、技術的なノウハウは出せるとのこと。
4. 5月イチゴの栽培
   デュズジェ特産の、「5月イチゴ」という、変わったイチゴ(食用だけでなく、化粧品にも使える。)の栽培。マッシュルーム栽培工場の一部分を、栽培に充てることを考えている。
5. ハウス栽培
   デュズジェでは、ハウス栽培の農業はこれまであまりポピュラーではなく、これを機に新たな農業方針として取り入れたい。

以上、この5点が今後の復興プランとして挙がってきました。
これを受け、予算等もう少し詳細な計画案を、デュズジェ側にも出していただくと共に、委員会としても常任委員会等にかけて、協議した上で、決定していきたいと思います。

■4月17日

<事務局より>

前回のニュースで、常任委員会で「今後の支援プロジェクト」の協議内容をお知らせしましたが、委員長の村井が4月1日～4月9日まで別件で、トルコへ訪問しました。その中で、今後の支援プロジェクトへのレポートが入ってきましたので、紹介させていただきます。

・デュズジェ支援

第5テント村の移転に際して、住民たちが協働で使えるものへの支援の検討。
訪問したときは、まだ移転はしていなかったのですが、「1週間以内に移動せよ」とクリズマサス(危機管理センター)から言われたそうです。代表達は、このことで現在走り回っているようです。同時に、移転してからのプロジェクトも、模索中で、チャイ飲み場や作業所等共有の場を検討しています。(女性の自立プランのためにミシンを13台確保しています。)

・女性の村プロジェクト

カウンターパートのひとつ「CCC」の進めるプロジェクトです。第3次派遣団・第5次派遣団においてギョルジョックで行われている「女性の村」を視察してきましたが、今回は、デュズジェ市ビパレッジ村で行われているものを視察してきました。
1,500のテント村の中にあり、作業所では、鋼板によるレリーフづくりが行われ、その他喫茶や空手道場があります。この「CCC」のプロジェクトは、着実に進んでいるようです。村井委員長曰く「すばらしい」とのことです。

・子どもたちとの交流企画

デリンジェ市の「愛と望みのテント」の子ども達をKOBEに招待し、日本の子ども達との交流企画です。
しかし、デリンジェ市ヤブズスルタン地区全域を支援先としている当委員会は、「愛と望みのテント」の子ども達を日本に招待するというのは、他の子ども達に対しても、申し訳ないと言うことで、同市助役のアフメットさんに相談したところ、「デリンジェ市からの派遣という形で考える。」と言ってくれました。
従いまして、アフメット氏からの連絡を待ってから本格的にこちらは動くことになりました。

・デリンジェ支援

「市民文化教育センター＝草地文化センター」の進めるプロジェクトへの支援の検討。
現在、建設予定地はまだテント村となっているため、住民達の仮設住宅等への斡旋作業が行われています。4月中には、着工したいと言うことです。第5次派遣団にて頂いてきた、設計図よりも、しっかりした設計図が作られていました。
なお、デリンジェ市内イエニケント村等に建設された4,000戸の仮設住宅の支援について、当初、当委員会の支援内容に挙がっていましたが、この団地には建設段階からワールド・リリーフ(アメリカからのNGO)が入っており、完璧に今後の支援もされており、当面は必要ないようです。

前々回もお伝えしましたが、これらの報告をもとに、各々の進捗状況を見て、支援策を検討していきますので、中長期に渡る救援活動となります。
今後も継続してNKIなどからの情報を収集し発信していきますので、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

■3月24日

ご無沙汰しております。仲江川がトルコから戻り、もうすぐ1ヶ月が経とうとしております。
さて、3/21に、トルコ北西部地震・緊急救援委員会の常任委員会を神戸YMCAで開きました。その報告をさせていただきます。

《常任委員会報告》

○今後の支援プログラムについて

常任委員会では、今までの活動をふり返り、今後の展開についていくつかの提案がされました。

・デュズジェ支援

昨年11月、2度目の地震となったデュズジェへの支援を継続して行います。
デリンジェで進めている「市民文化教育センター＝草地文化センター(仮称)」を見本として、デュズジェでも同様に住民主動のセンターを建設できれば、と考えております。また、今後第5テント村が移転するにあたって、住民協働で利用できるものを基本にして「共同炊事場」「共同洗濯場」などの設置を考えております。

・女性の村プロジェクト

以前のニュースでもお伝えしたように、女性の自立のための支援プロジェクトがようやく主動しました。プランが出来、候補地も決まり、恒常的な女性の村設置に向けての活動が本格化します。従って委員会としてもこのプロジェクトの中の具体的な活動を支援していきます。

・子どもたちとの交流企画

これは、デリンジェで出会った「愛と望みのテント」の子どもたちを神戸に招待して、彼らがトルコで行った自作自演の歌・劇を発表してもらおうというものです。今後、彼らと神戸の子どもたちの交流を計画していければと考えております。

・デリンジェ支援

第2次派遣団の際に決定したデリンジェ支援を継続して行います。また、「市民文化教育センター＝草地文化センター(仮称)」の建設着工予定が4月、完成予定が夏になり、その中のプロジェクトへの支援を考えていきます。

何度もお伝えしていますが、今回のトルコ救援は、緊急時の支援のみにとどまらず、中長期的支援と位置づけ、今後も活動していきたいと思います。今後、NKIやデュズジェの第5テント村住民代表から情報収集をしながら、支援プロジェクトを確定していきます。

○会計

今まで集まった募金総額(2000年3月9日現在)：￥66,609,094

～事務局経費について～

1/6、今年最初の常任委員会の際、トルコ・台湾の募金総額の内最大10%を事務局経費として割り当てることを了承され、その後事務局でそれぞれの予算案を作成、3/21のトルコ常任委員会に提出し、当面7月末までを期限とし、合意されました。

■2月20日

<事務局より>

2月7日より、委員会から第1・2・4陣でトルコに入った仲江川徹に今回第5陣として現地に入っています。
今回は、デュズジェの冬対策の進捗状況、各支援プロジェクトの進捗状況を確認するために現地入りしました。
仲江川から報告が日々入ってきていますので、まとめてレポートします。

<報告>

・市民文化教育センターについて

設計図を見せてもらう。センターは2階建てで図書館・子どもの部屋・台所・パソコン教室建設日程は夏頃からということです。

・日本仮設村

アダパザル市内にあるアドリエ村に建設された日本の仮設住宅団地がある。500戸の仮設住宅が建設され、今現在は350世帯が入居している。入居者は住居が全壊、もしくは半壊した人のみ。
入居にあたり配布されたのは、毛布・ガスストーブ・ガス台・テーブル・椅子・ベッド・プロパンガス。
かなり郊外に位置するため、アダパザル市内までのバスが1時間に3本出ている。女性のための手芸品・服飾のためのカルチャー教室のようなものがある。その他、公衆電話・売店・移動式八百屋もあった。
また、病院と警察も常駐している。どちらも仮設解消まで滞在するとのこと。またどちらも24時間体制で対応をしている。
住民の反応は、湿気もないし使いやすいと評判とのこと。
住民代表がおり、彼らはサカリヤ県知事から任命されてこの役職に就いている。他に2人サポート役がいる。今後追加分もあわせて1196戸になる予定とのこと。
今後住民代表が考えているプロジェクトについて

- 公園のような遊び場を作りたい
- 移動式の洗濯機を置きたい
- 文化センター的なものを作りたい

また、地震前の生活に少しでも近づけられればとも言っていた。
ここは、本当に神戸の西神を彷彿させる感じがして、今は仮設しかないので余計に殺風景だった。

・デュズジェ

第4陣のときに入った第5テント村へ。今現在テントは300戸に増えている。トイレ・シャワーはクリズマサス(危機管理センター)から提供されるそう。診療所もコンテナを置いて常設している。その他、移動式洗濯機車、子ども用・女性用テントが支給されるとのこと。
1週間後にテント村は移転することになっており、移転先で、幼稚園や手芸品などをつくるための女性達が集まれる場所を作りたい、というのがテント村代表カディル氏の話だった。また同時に失業問題にも取り組んでいきたいとのこと。

・愛と望みのテント

今後の活動について相談を受ける。テントから小屋へ移ったが、テントの時よりもスペースが狭いため、彼女たちも色々悩んでいる様子。
NKIのメンバーが彼女たちにアドバイスをして、それについて考えてもらうという宿題を出し、この答えは、仲江川が帰国するまでに出してくれるとのこと。

また、2/19から神戸YMCAの山根さんがトルコに出発し、仲江川と合流する予定です。彼は25日に帰国予定で、レクレーション指導を中心に活動します。またご報告します!!

■1月31日

<事務局より>
第4次派遣団が試験的に**ゆたんぽ**を、「冬対策」に有効か調査するために持って行きました。その結果、就寝時には新ストーブやガスストーブよりも安全で使いやすいという報告を受けました。
前回の第39報でお伝えしたように、雪シーズンが到来しデュズジェにおいては、冬対策が気になるところです。当委員会のカウンターパートとして、第5テント村が挙がっていますが、リーダーカディル氏を中心に5人がテント村の運営に日々奔走しているようです。そこで、第5次派遣団で2月7日から27日までスタッフを派遣します。
派遣目的は、各支援プロジェクトの進捗状況の確認ですが、今回は、デュズジェの冬対策として500個の**ゆたんぽ**をもっていき、デュズジェ支援を中心に考えています。
そこで、今回特別キャンペーンを実施したいと思います。

ゆたんぽ大作戦

あなたのその心
ゆたんぽに変えて・・・
抱きしめて ゆ・た・ん・ぽ
一口2,000円(送料込み)

一口2,000円となっていますが、個人はもちろん仲間を募って頂くのも大歓迎!!
デュズジェでは、まだまだ冬用のテントすら手に入っていない人がたくさんいます。
トルコから始まり、台湾・ベネズエラ・中国と世界で災害が続いています。
もう一度皆様のご理解の上、広く呼びかけて頂きたいと思います。
皆様ご協力をお願いいたします。

尚、今回のゆたんぽ大作戦にご賛同いただける方は、通信欄に「ゆたんぽ」とご記入下さい。

■1月28日

<NGOs KOBE イスタンブール(N.K.I)より>

◎本格的な雪シーズン到来
現地時間1月25日から、全国的に大雪が降りイスタンブールでも10センチ以上雪が積もり、都市機能がパンクしているようです。
デュズジェは、もっとひどい事態が予想されますが、そんなデュズジェの情報も入りました。

◎デュズジェの第5テント
クリズマサス(危機管理センター)による、デュズジェ内のテント村の代表者会議が開かれました。一時は、公園ということで、行政・軍の下にテント村が作られたわけではないことを理由に、場所が移動されるかもしれないという話がありました。
しかし、会議の中で第5テント村が一番しっかりしているということになり、近くの小さなテント村2つの管理も任されたようです。更に、2週間以内に約120張の冬用テントの支給が決まったようです。
従って、当委員会としてのデュズジェ支援も広がったと言うことになります。
N.K.Iとしても、今までお伝えした「デリンジェの冬対策」の件がひと段落つき、DEKMAKと住民ボランティア、住民との関係もうまくいっているとのことなので、今後は、デュズジェのほうに力を注ぎたいと言っていました。

◎デリンジェ市「市民文化教育センター(仮称)」について
行政レベルで進めるのではなく、住民主体の「建設委員会」を作りその中で協議していくもので、第3次、4次派遣団でデリンジェ市長、助役と合意してきました。
遅れていた「建設委員会」が組織され、実際に建設に向けて動き出したようです。

<事務局より>
N.K.Iから2人、3月10日に来日します。これは、前回お伝えした、故草地賢一氏の「草地賢一さんを偲ぶ会」が開かれる事を伝えたら、是非参加したいということです。

「草地賢一さんを偲ぶ会」
日時：2000年3月10日(金) 第1部 午後2時～午後5時(県民会館9F大ホール)
第2部 午後6時～午後8時(神戸YMCA)
内容：第1部 「人間草地の素顔」
ミニコンサート(予定)／シンポジウム「NGO運動とネットワークの可能性」(仮題)
第2部 「それぞれの想いを語る」(立食パーティー)

■1月15日

<NGOs KOBE イスタンブール(N.K.I)より>
前号でもお伝えしたデリンジェの冬対策の件ですが、更に詳しいリストが入ってきました。以前、ヤブズスルタン地区のテント村は「13ブロック」とお伝えしましたが、調査を実施していく中で「15ブロック」に増えたようです。以下詳しいリストを紹介します。

○850家族に食糧を配布(1家族あたり)
チーズ 1キロ／オリーブ 1キロ／チャイ 1キロ／砂糖 1キロ／マーガリン 2個
サラミソーセージ 1個(300グラム)／ひまわりオイル 1リットル／ジャム 1キロ
食器用洗剤 1リットル

○各テント村にアイロンルーム建設
各テント村にアイロンと机 2個購入
○ストーブ50個購入に関しては、電気の使用不可を調査中。その結果を待って、電気ストーブ、ガスストーブを分けて購入予定
○アイロンルーム建設・ストーブの普及により火事が予想されるため消化器を各テント村に2個購入。
○その他 補聴器、毛布、靴等に関しては、値段等含めて調査中

<事務局より>
KOBEにおきましても、1月17日に震災から5年を迎えようとしています。当委員会の委員長村井をはじめ委員会加盟団体の方々、その他の団体の方達が発言者となって1月18日に、「震災5周年 市民とNGOの「防災」国際フォーラム」の中のメインフォーラム「KOBEの経験とトルコ・台湾」が開かれます。また、過去の災害救援の委員長を歴任してきた故草地賢一氏の部屋を設け、彼に寄せられた各界の関係者による追悼文の紹介、彼の今までの軌跡や資料など展示いたします。皆様、ふるってご参加下さい。

震災5周年 市民とNGOの「防災」国際フォーラム
くらし再建 5年の体験 21世紀世界へ
2000年1月18日(火)
神戸市勤労会館3階・4階会議室
開会 午後1時30分
主催：市民とNGOの「防災」国際フォーラム実行委員会
メインフォーラム：308号室(13:00～21:00)、草地賢一の部屋：306号室(9:00～17:00)

■1月10日

<NGOs KOBE イスタンブール(N.K.I)より>
デリンジェの冬対策の調査について連絡がありました。当初の予定より遅れていることは、前回のNEWSにてお知らせしましたが、昨年末に無事に終わったようです。
以下、調査で上がってきたリスト。

- ストーブ50個購入費
- それぞれのテント村に消火器30個購入費
- それぞれのテント村にアイロン・ルームを作るためのアイロン30個購入費
- 食糧がまだまだ不足しているので、食糧購入費
- ベット、毛布、コート、靴の購入費
- 補聴器が無くて困っている人の為の補聴器購入費

今現在、DEKMAK・デリンジェ住民と連携しての調査が一段落し、冬対策に向けて着実に準備を進めています。今後もその後の進捗状況を報告していきます。

<常任委員会議事>
1/6に神戸YMCAにて常任委員会が開かれました。その内容を報告します。

1.阪神大震災地元NGO救援連絡会議代表・草地賢一さんの死去に伴い、常任委員として神戸学生・青年センター館長の飛田雄一さんを推薦する。(1/8、飛田さんに連絡を取り、快諾される)

2.募金の状況(12/31現在)
合計で6350万円。(内、災害救援金約125万円は、当面トルコ支援に充当しない。)
◎ベネズエラ救援委員会から以下のような提案がされた。
ベネズエラの水害発生後、ほとんど国内での報道もされていないため、今現在「1円」しか集まっていない。ホンジュラスの経験から、スタッフを派遣してベネズエラの被害実態を報告する必要がある。そこで、ホンジュラスの金井優子さんに打診をし、ベネズエラYMCAを通して現地入りしていただくことを検討する。
そのため、金井さんのベネズエラ入りが決まれば、トルコ救援委員会に集まっている災害救援金の一部を支援金としてベネズエラに充当することを了承。

3.トルコの状況(4次隊の説明と現状)
DEKMAKが1ヶ月デュズジェに入ったため、デリンジェの冬対策が遅れていた。そのため第4次隊が住民集会を開き、早急に冬対策のプログラムをまとめることを確認した。これに関する調査やリスト作成・物資購入・配布などについてDEKMAKとN.K.IおよびCCCが協力して実施することを合意した。
その後、年末年始を挟んだこともあり、N.K.Iからの連絡が遅れていたが、N.K.Iから、ようやく調査に基づく必要物資を連絡が入った。(すでに一部の物資の購入は進めているようだ。)当委員会としては、とにかく今が一番厳しい冬なので、冬対策を優先させる事が先決だと、確認された。

4.今後のスケジュール

1. 冬対策を急ぐ
   特にデュズジェの冬は長いため、デリジェ同様、継続して冬対策の支援を行う。
2. 市民教育文化センターの建設委員会設置などソフト面の確立を支援する。
3. DEKMAK、N.K.I、CCCなどのネットワークづくりを支援する。

以上の3つに焦点をあてる。
このことを着実に進めるためには、N.K.Iとの連絡を密に取り、改めて役割を整理する必要がある。
前述の(1)(2)(3)の進捗状況を確認するためにも、当委員会から2名ないし3名の第5次派遣団を検討する。内1名は1ヶ月程の期間の滞在を検討する。(めどは1月末から2月末)ただし、N.K.Iが非常に有効な情報とレポートを提出してきた場合は、N.K.Iに任せ、1名のみとする。
KOBEの建築家が市民教育文化センターの設計を見たときに、「これでは耐震性が弱い」と指摘があったので、建築家であるCCCのリーダー・コルハン氏に打診をし、建設委員会に参画してもらうことを依頼する。このような具体的な連携を行うことによって、前述したネットワークづくりに大きく貢献することになるだろう。

5.運営資金について
これだけ長期にわたるのは初めて。だが、このトルコ救援は今後につながる大きな意味があるので、続けねばならない。当面6ヶ月としてスタートしたが、11月12日のデュズジェの新たな地震もあり、当面3月末まで延長する。また、救援活動の長期化に伴い、事務局を担っていただいている被災地NGO協働センターも財政的に厳しい状況もあり、常任委員会としては、募金総額から活動資金と災害救援金として振り込まれている分を差し引いた金額の10%を事務局運営管理費に充てることを決定した。(ただし、現地渡航費・現地連絡調整費などはこれに含まれない。)
合わせてN.K.Iに対して、3月末までの現地連絡調整費を支給することも了承された。

<訃報>
当委員会の委員長草地賢一氏が、1月2日神戸市内の中央市民病院にてお亡くなりになりました。享年58才。死因は、急性腸炎による敗血症。1月3日に前夜式、1月4日に葬儀が、神戸市内の東部教会にて行われました。
草地さんの訃報を聞いたN.K.Iのメンバーは、その後事務局に「草地さんの写真の傍らで作業がしたいので写真が欲しい」という連絡をくれました。
草地さんのご冥福を心からお祈りいたします。

■12月25日

<NGOs KOBE イスタンブール(N.K.I)より>
第4次派遣団報告書にてお知らせしましたが、デリンジェ・ヤブズスルタン地区の冬対策に関する調査は、予定より遅いですが、DEKMAKと住民ボランティアを中心に今も実施されているという情報がN.K.Iより事務局に入ってきています。
第4次で行われた3回に及ぶ集会は、DEKMAKとNGOs KOBEだけでなく、住民の方々も参加して公開での協議に大きな意味があると思います。NGOs KOBEがどんなことを考えて、デリンジェにおいて活動を展開しているか？DEKMAKの活動形態とNGOs KOBEとの関係。これらを、明確に示したことでNGOs KOBE、DEKMAKそしてヤブズスルタン地区の住民の方々との「三者の関係」が、今後、被災地の関係者の自立」につながっていくことを期待しています。
しかし、集会にたいして何回も言ったことですが、冬は始まっています。今後も、トルコとKOBEで、ローマ字とひらがなを巧みに使って情報を収集し、皆様に発信していきます。

<トルコ国マルマラ地震緊急復興(MEER)プロジェクト>
世界銀行が、トルコ地震に関する支援策として、1999年から2004年まで融資を決定。世界銀行のイニシアティブのもと、トルコ政府と共に実施される予定。
プロジェクトの内容は以下の通り。
・国家緊急マネージメントシステム
・地震保険制度
・土地利用計画、設計基準の徹底
・土地台帳の改善、土地管理
・大人の精神的医療ケア
・恒久住宅の建設(ボル、コジャエリ、ヤロワ、サカリヤ、イスタンブール、ブルサ、)
・プロジェクト管理(プロジェクト実施ユニットの設立、維持)
・企業再建
・既存住宅と医療施設の改善
・道路、上水、下水、電力網の修繕、再建
これらは、行政組織の改編、法改正に伴うもので政治の絡む内容となっている。またトルコ政府の多額の負担や行政組織間の協力が不可欠であり、その実現性に関しては疑問の声を上げる人もいる。

■(12月3日)■

今日第4次派遣団3名がトルコへ出発しました。テント村での冬対策は"湯たんぽ"が有効ではないかということで、とりあえずモニタリングするために持って行きました。
NGOs KOBE委員会の現地通訳でお世話になったさんが一時帰国されました。彼の話によるとデュズジェは周りを山に囲まれた盆地で、夜はマイナス8度、昼はほとんど日が照らないと言う地域のようです。カイナシュル・ボロはそれより高い地域にあり、厳しい冬を過ごしています。

～カイナシュルについて～

11/12の地震後カイナシュルからは、2000～3000人の人が村を出て行きました。37のテント村があり、6000人がテント生活を送っている。現地の新聞ジュムフリエト紙の報道で「カイナシュルがテント村になった」という大きな見出しが出たほどほとんどがテント生活を送っている。

<現地入りしているNGOs KOBEの2名からの情報です>

～デュズジェについて～

- テント村はデュズジェの中心地の公園に陣取っている(日本から派遣された医療チームはすぐそばで医療活動をしていたようです)。
- 11/26現在 死者703名、負傷者3872名、行方不明3名
- テント村38ヶ所 4164基のテント
- デリンジェチーム、NGOs KOBE・イスタンブールチームが入っているテント村
  →第5テント・90基のテント(11/27に自治組織が立ち上がった)
- DEKMAK(デリンジェチーム)は30日をめどにデュズジェから一旦撤退し、週末に行く程度にする。デュズジェの現地のグループの団長が決まり、DEKMAKやNGOs KOBE・イスタンブールが今後撤退しても、活動できるよう、地域住民ボランティアに引き継ぐ。
- テント村の電気、トイレの問題が解決された。(企業からの寄贈などにより)
- シャワールームはまだ解決していない。
- 冬用のテントが未だに足りていない(軍と交渉中)。これはもっとも大きな問題であり、国からの情報を待たないといけないと思う。
- テント村の暖は、今のところ取れていないのが現状。一部では暖炉を作ってはいるが、ガス・電気がまだないので、ストーブが使えない状態。電気が来ても、みんなが電気ストーブを使えるほどの電力がない。

■イスタンブールにて■

- メディア等で、今後イスタンブールでも大地震が起こると言っている教授がおり、みんな混乱している様子。

■その他の団体の動き■

- 名古屋・「震災から学ぶボランティアネットの会」がトルコの街頭募金キャンペーンを名古屋駅にて行います。11/30と12/1です。皆様、是非ご協力の程、よろしくお願いいたします。
- 「集まれ!!学生ボランティア'99」実行委員会より、須磨でのイベントの際に集めていただいた募金￥80,000を頂きました。有り難うございます。

■第4次派遣団・先発隊の二人より第1報です。(11月29日)■

トルコは相当冷え込みが厳しく、イスタンブールでも26日に雪が降ったようです。
27日現地時間PM8:30にイスタンブールに到着し、そのままNGOs KOBE・イスタンブールのメンバーと合流し、ミーティングを行いました。
28日は、NGOs KOBE・イスタンブールのメンバーと共に、デュズジェに入り、現地の視察やDEKMAKとのミーティングを行いました。

～デュズジェについて～

- デュズジェでは、軍と行政との関係など、デリンジェのようにうまく行かないのが現実です。デリンジェチームは一旦デュズジェから撤退する方向でいますが、NGOs KOBE・イスタンブールはしばらく様子を見ることにしています。デリンジェチームもその後週末にはデュズジェのテント村に入り、支援を続けるとのことです。
- デュズジェでは、デリンジェと違って軍の使い配が強く、11/12からデリンジェチームが建てたテント村も、いつ閉鎖されるかわからない状態。(現に他のNGOが支援していたテント村も閉鎖されつつある。)
- DEKMAKは、トイレ・シャワーの発注や、デリンジェの経験を踏まえ、現地ボランティアにクリズマサス(災害対策本部)との交渉、軍との交渉、ニーズ調査の方法などを伝えているとのこと。
- デュズジェの大学生ボランティアが、銀行からお金を借りて、それで木製の家を建てるという動きがあります。しかし、人手が足らないという状況のようです。

～仲江川Kんのコメント～

- 軍隊の「テント村を閉鎖する」という話も気になるし、CLOSEしても、いかに有効に、いかに約400人程の人たちを満足のいくように他のテント村へ移行してもらうかが大事なことですね。

5年前の寒さを思い出します。厳寒の地で避難生活をしている人たちおよび救援活動を続ける仲間を支援して下さい。よろしくお願い致します。

■第4次派遣団・先発隊の2名が27日、出発しました!(11月27日)■

11月27日、ボル県ドゥズジェの被災地に第4次派遣団の先発隊が出発しました。今回は第1次、第2次とトルコに行った仲江川君とトルコ救援のお手伝い、西田君が現地に28日入ります。イスタンブールでNGOs KOBE・イスタンブールのメンバーと合流し、そのままボル県ドゥズジェに入る予定です。また、後発隊は12月3日に合流し、10日に帰国する予定です。また彼らからの報告が入り次第、皆様にお伝えいたします。

■被災地は今…■

今、ドゥズジェは雪が降っているとのこと。(このボル地方は5月くらいまで、雪が降るそうです。)デリンジェ、NGOs KOBE・イスタンブールの合同チームの支援するテント村は、公園のなかで80基(400人)が生活を建てており、これ以上テントを建てるスペースがなく、当面この400人を支援する方針で活動をしています。NGOs KOBE・イスタンブールのメンバーは、これまでは車で寝泊まりをしていたのですが、テントが一つ調達できたので、3日～4日のローテーションで彼等もテント生活をしているそうです。
5年前の寒さを思い出します。厳寒の地で避難生活をしている人たちおよび救援活動を続ける仲間を支援して下さい。よろしくお願い致します。

■その他の動き■

11月26日、私鉄ハイタク労連という労働組合がトルコ・台湾の被災者にということで募金を持って来られました。この組合は、私鉄のハイヤー・タクシーの運転手さんたちの組合です。この不況の中、タクシーの売り上げも激減しているそうです。それでも、「私たちも、阪神・淡路大震災のときはみんなに助けられた。こんな時にお返しをしなければ」ということで、運転手さんたちが募金をしてくれたのです。持って来られた代表の方も阪神・淡路大震災の被災者で、避難所・仮設という生活をしてこられただけに、台湾やトルコの被災者の窮状を察することができるとおっしゃっていました。「私鉄といってもバス・鉄道とありますよ。阪神・淡路大震災の犠牲者のなかでも、ハイヤーやタクシーの運転手でなくなった人のほうが多いのです。」とおっしゃっていました。
本当に、貴重な募金をありがとうございます。

■NGOs KOBE イスタンブールと連絡を取りました!(11月25日)■

●NGOs KOBE・イスタンブールからの現地情報

- 冬対策がまだ完全ではありません。赤新月社の三角テントを二重にしても、寒さが厳しく、大変だと思います。デュズジェは標高がデリンジェなどに比べて高いため、冬は厳しいのです。
- 11月20日に、「MILLIYET」という全国紙の新聞記者が取材に来ました。テント村で出来上がったシステムのことやDEKMAKとNGOs KOBEの協力のことについて、21日の新聞に掲載されるようです。
  また、アメリカやイギリスからの市民団体もテント村に訪れ、出来上がったシステムに感心していました。

すでに、委員会ニュースでもご報告していますが、11月13日の地震以来、「NGOs・KOBEイスタンブール」とデリンジェで結成された救援チームが、一緒に被災地に入り、被災者のためにテント(80基)を建て、救援活動をしています。27日からの2名は、このチームに合流し、救援活動をするとともに被災地でのNGOのネットワークづくりの可能性を追求してきます。

●久しぶりに、デリンジェNEWS

デリンジェ市ヤブズスルタン地区にある「愛と望みのテント」の子ども達が、テントの運営費用を確保するために「手芸品づくり」を始めたとのこと。どんなものが作られているのか楽しみです。きっと第4次派遣団が大量に買い込んでくるでしょう。

■当委員会からもデュズジェ入りします!!■

11月13日に発生したトルコ・ボル県デュズジェ市に2名を派遣します。(1名は、第1次、2次の派遣団として被災地に行った仲江川徹です。)
トルコ航空の協力により、2名のフリーチケットが手に入ったこともあって、11月27日日本を出発し、デュズジェをはじめカイナシュルなども視察し、12月6日には本体の派遣団(12月3日より10日まで)と合流してデリンジェに入ります。
なお、本体の第4次派遣団は5名を予定しています。

■CCCからの情報■

ボル県ドゥズジェ市、カイナシュルに入っているCCCからの情報によると、「今回の地震でまだ40,000世帯がテントで避難しており、冬用のテントが不足しているため厳しい生活を送っている。」とのこと。
CCCは、コンテナハウスのドナーを求めている。トルコ国内の生産は間に合わないが、ドイツがまとまった数を在庫して抱えていることがわかり、それを調達しようという計画である。(一戸約30万円)
一方、8月17日の被害を受けたアダパザルでは、大工さんに声をかけ、木製の小屋をどんどん建てている。(一戸約5万円)この小屋は、2年で終える計画のもとに、一日10個が建つそうである。デリンジェ市でもどんどん木製の小屋が建っているが、コンテナハウスより材料さえ調達できれば、はるかに小屋の方が現実的であることは間違いない。工夫をすれば、当面の仕事にもなり一石二鳥だと思う。

ここで委員会としてもう一度広く皆様に募金の呼びかけを行いたいと思います。

■NGOs KOBE イスタンブールと連絡を取りました!(11月20日)■

現在の状況ですが、食事の問題はデリンジェ市とDEKMAKが3食炊き出しを行っており、全く問題はないようです。やはり一番の問題は、「冬対策」だそうです。現在町中に電気が通ってない状態で、トルコでは電気ストーブが主流らしく電気ストーブを買うことができないそうです。電気が通ったらすぐ電気ストーブを購入したいと言うことでした。
NGOs KOBE ISTANBULのメンバーは、デリンジェ市エニケント村で活動しているメンバーや、DEKMAKのメンバーとともに、デュズジェでの調査・情報収集の活動や、テント村の支援を行っています。デリンジェからのメンバーは、バスで被災地に入り、自分たちはバスで寝泊まりしながら、テントは被災者の方々に提供しているとのことです。
彼らは、軍が指定したところではなく、駐車場のスペースにテント数80基、約400人規模のテント村を設営し、テントの足りない人のため、調達に奔走しているようです。クリズマサス(危機管理センター)と軍隊にテントを譲るように交渉をしていて、軍隊から30張のテントが調達できそうだと言っていました。しかし、まだまだ冬用のテントが足りないようです。
また、住民の中から何と約5人程のボランティア有志が出てきました。そこで、今デリンジェで取り組んでいることを伝えて、その仕組みをデュズジェの有志に任せていきたいとのことです。システムはNGOs KOBEのおかげでしっかりしているので、方法をボランティア有志に伝え、デリンジェの方も心配なので様子を見に行くと言っていました。デュズジェは今回いっぱいをめどに様子を見ようと考えているようです。12月3日から出発する第4次派遣団が来る頃には、しっかりしたテント村を見てもらえると思いますという、頼もしい言葉が返ってきました。

<構成団体の動き>

- 第1次・第2次派遣団が、トルコで何回か会っているピースボートのメンバーも現地デュズジェ入りして「NGOs KOBE イスタンブール」と接触し、支援活動を行っている模様です。
- 自敬寺で行われる「支える会・・・自立する子ども達に出逢って」と題したトルコ大地震緊急救援活動報告会に第2次・第3次派遣団の一員として現地に入った佐々木さん(被災者・市民フォーラム)が報告されます。トルコ・台湾被災地の写真展も併設されます。
  - 日 時：11月24日(水)午後1時～午後3時
  - 会 場：自敬寺(大阪府淀川区西三国2-12-43 TEL06-6391-5348)
  - 参加費：300円(申し込み不要)
  - 共催：アーユス(仏教国際協力ネットワーク)、Asiann Heart、自敬寺

<その他の情報>

OCHA(国連人道問題調整事務所)からの情報が入っておりますので、紹介いたします。

- 軍隊によれば、約5万人が十分な収容設備のないまま避難生活を送っている。
- イズミットにあるGengiz Topel Military空港で、International Aid Reception Center(国際援助受け入れセンター)を作るための動きが進行中です。援助の受け入れを調整するLogistic Support Coordinationセンターが2つ、ボルとデュズジェで軍人により設立された。
- 外務省と国際援助チームは、最も急がれる需要は、冬用テントだといっている。要求されている数は、トータルで15,000個。

■ボル県デュズジェ編■(11月18日)

「NGOs KOBE・イスタンブール」のスタッフから、その後の状況が入ってまいりました。(11月16日、現地時間13時50分)

デュズジェ地震についての最新情報ですが、16日正午現在の被害状況は次の通りです。
死者547人、負傷者3,299人、7,000棟余りの家屋が被害を受け、うち全壊家屋数は715とのことです。
CCCは24時間体制で支援を行っており、テレビ、ラジオなどを通して現場で不足しているものなどを呼びかけています。足りないものは冬用のテント、ストーブ、毛布、寝袋、布団、インシュリンをはじめとする医薬品で、衣服は足りているとのことです。また、現場は夜になるとマイナス3℃まで冷え込むため、一時的に町を離れたいという人が多く、その人たちを移動させる車両なども必要とされています。また、トイレ・シャワー付きのコンテナハウスが、冬用テントが最も重要な課題であるという報告も入っています(ドイツのコンテナハウスは15平方メートルで約180,000円だそうです)。
デリンジェ市とも連絡を取り、DEKMAKら地元の市民団体混成の第一次救援隊の活動(とりあえず今日にでも終える予定だそうです(デリンジェで余っていたテントや毛布、医薬品などの配布が終わり、建てたテントに入った人もとりあえず落ち着いてきたから、とのことです)。

■その他の団体もデュズジェへの救援を始めました■

- 東京を拠点にするシャンティ国際ボランティア会(略称SVA)が、今回の被災現地にスタッフを派遣し、調査にあたり、避難所となっているテント村への支援活動を行っています。
- 第1次先遣隊が接触した、「ERCC(トルコプロテスタント教会)」も被災現地に入り支援活動を行っているようです。

■委員会構成団体の動き■

当委員会構成団体の「震災から学ぶボランティアネットの会」(名古屋)が、今回の提案の受けて名古屋駅にて街頭募金を行います!

- 11月20日(土)・・・14:00～16:00
- 11月21日(日)・・・18:00～20:00

同時に、お手伝い下さる方も募集しています(現地集合)。

現在49団体の賛同と10団体の後援が決まっております。ご協力ありがとうございます。

■現地からのレポート(11月16日)■

<ボル県デュズジェ編>

「NGOs KOBE・イスタンブール」より事務局に連絡が入り(11月15日日本時間早朝)、前回(11月14日)レポートしたように、デリンジェ市のDEKMAKチームの数名と「NGOs KOBE・イスタンブール」チーム4名が現地に入り、テント55張りを使い、約200名の被災者の支援にあたっています。当委員会は、常任委員会に諮り、デュズジェを中心にボル近郊の被災地支援を活動に加えることが決まりました。
現地入りしている「NGOs KOBE・イスタンブール」のスタッフと連絡を取ることができました(11月15日、日本時間17時30分)。

デュズジェの被害状況は、死者454人、負傷者約2,200人、倒壊家屋約700戸。デュズジェの人口のほとんどが、町の中のある6個の大きな工場で働く人のようです。そしてその工場は、ほとんど崩れた模様です。また、大きなスーパーが2つあり、地震当時、買い物客の多くがスーパーの中で亡くなったようです。病院も崩れ、直後からプレハブで診療所が開設されましたが、薬など全然足りないそうです。消防署も崩れ、町に入ると煙が立ち込み、悪臭がしたようです。今の時点では火事は収まったようです。デュズジェは、標高がやや高く、最低気温マイナス5から10度とのこと。その中で至急防寒着や暖房器具が必要になるでしょう。
KOBE、台湾、8.17のトルコと違うところは、地震の起きた時間です。早朝や未明ではなく夕方の忙しい時間に起きたということが、今後の被害の数を増やしていくかもしれません。現地スタッフによると、緊急救命時期の72時間を過ぎた今でも家の中に閉じこめられている人がいるらしく、まだまだ具体的な支援策が見つからないようです。今後、2～3人が、2・3日交代で現地に入り込み、情報収集・被災者支援にあたりKOBEに情報を発信していくと力強く答えてくれました。

*当委員会がカウンターパートにしているCCCからも連絡が入り、スタッフのほとんどが現地入りをして、緊急救命活動を行っている模様です。イスタンブールの事務所は、留守番のスタッフが手薄となっているようです。

■早速、現地よりレポートが入りました!!■(11月14日)

NGOイスタンブール班とデリンジェDEKMAKのメンバーで、昨晩デュズジェへ行ってきました。13日14時現在死者269人、負傷者1,736人と発表がありましたが、現地は、はっきりいって壊滅状態です。前回の地震で、半壊だった家屋が軒並みぺしゃんこになり、(これらの家には幸い人がいませんでした。)一部損壊の家屋も、かなりのダメージを受けているようです。また断層がずれて、かなり広範囲にわたって亀裂がみられました。ボル県のデュズジェとその隣にあるカイナシュルがもっとも被害を受けています。
復興作業も再び振り出しに戻る、といった感じを受けました。地震は、夕方7時前でしたので、デパートや高速道路のサービスエリアでもたくさんの人が閉じ込められた模様です。家で夕食の支度をしていたため、火災も多数発生していました。最初は、道路があちこちで分断されていて、救援隊の到着が遅れ、日没後で真っ暗だったこともあり、救助作業は思うようにはかどりませんでした。
さて、なぜ私達がそんなにも早くデュズジェに入ったかというと、そもそもNGOイスタンブール班の3人が、自宅からセンターなどとりあえず援助物資を届けることになり、ついでだから通り道のデリンジェへも寄ろうかとDEKMAKに連絡したところ、彼らも余っているテント、毛布、医薬品などを持って行く準備をしていたらしく、一緒に行くことになった次第です。(彼らは一台のトラックと市バス、2台の乗用車の大編成で、男女あわせて30人はいたと思う。)
12日夜の11時頃イスタンブールを出発し、デリンジェ隊と合流、午前1時30分にデリンジェを出発、約一時間後に現場に到着。しかし、ここでトラックが規制にあってしまって2～3時間待ちぼうけをくらう。危機管理センター(クリズマサス)に行ってもまともに機能していなかったので、DEKMAKの2人は、トラックが来てから勝手に駐車場をみつけてそこに持って行った55個のテントをたてて、なかに布団やマットレスを敷いて早速被災者を避難させました。
とりあえず、いままでの経過を報告いたしましたが、状況は刻一刻とかわってきているので、また新たな情報が入り次第連絡します。取り急ぎ、第一報まで。
NGOs・KOBEイスタンブールより

このような報告を受け、委員会としてはデュズジェも支援していこうと思います。当委員会が援助の対象地域と決定しているデリンジェ市のアフメット助役に今回の地震の影響を問い合わせると、「直接の影響はないが、やはり大きな揺れを感じ、パニックになってビルから飛び降りてけが人をした者もいる。元の家に戻っていた人たちのなかには、また屋外に出てテント生活に戻ったケースも少なくない。」「今回の地震の報を聞き、DEKMAKのメンバーや市職員・消防署員などが市役所に集まり、その場で協議し、デュズジェに救援活動に行くことを決め、市役所の車で約20人の若者が現地に入った。このような行動を起こすことになったのは、NGOs・KOBEの影響だ。すぐ電話をしてくれてありがとう。みなさんによろしく」と言われた。

当委員会の第2次派遣団の報告にもありましたが、トルコでは8月17日の地震以来、『拷問を待つ恐怖』のような日々が続いている。「初めて経験する、45秒の拷問を受け、そのあと、また来るから」と言って閉じこめられているような恐怖がずっと続いているのである。今回の地震で、その恐怖が増大したと言える。どうすればこの「恐怖感」が取り除かれるのでしょうか?

先日お伝えしましたが、予定通り第4次派遣団を派遣します。さらに中・長期的な支援がますます必要となることが予測されますので、みなさまよろしくお願いいたします。

■皆様へ緊急のお願い!!■(11月13日)

日本時間13日未明(現地時間12日午後6時頃)トルコ北西部のボル県デュズジェ(イスタンブールから130キロアンカラの手前:人口8万人)を震源として、M7.2の強い地震が発生し第一報では死者40人という報道がなされました。「NGO・KOBE・イスタンブール」のメンバーが今、現地に入っており情報の収集に努めています。詳細がわかればお知らせします。
このボルは、8月17日の大地震のときも200余名の死者が出た地域です。
当委員会の第3次派遣団の報告では、「9月末の状況に比べて、目に見えてテントが減っている。」とありました。これは、相次ぐ余震の恐怖からその土地を離れた人たちが少なくないことと寒さのため危険度判定で大丈夫と言われ、やっと元の家に戻った人が徐々に増えてきたからです。でも昨日の大きな地震で、再びテント生活に戻る人たちが増えることが予測されます。イスタンブールでさえ10月末の小さな余震でも一時テント生活に入る人たちが少なくない程なので、今回の地震で再びテント生活者が増えることは間違いないでしょう。当委員会の第2次派遣団の報告にもありましたが8月17日の地震以来市民は「余震の恐怖」に怯えています。そんな中でこのような地震が再び発生すると、パニックになります。

今、私たちができることは、

1. 阪神・淡路大震災を直接・間接にも経験した者が、いつもトルコのことを心配し、見守っていることを現地に伝えましょう。
2. テント生活者の生活を支えるために、可能な限りの支援を継続しましょう。
   *ただし、物資はいらない。現地でほとんどの物は調達できる。工夫をしてお金を集めましょう。

テントから本格的な小屋に建て替え冬を乗り越えようとする人たちが増えてきています。しかし自力で小屋さえ建てられない人もいます。地震の被害を受け財政的な理由から建てられない人も少なくないでしょう。資金があれば可能です。
台湾・インドのサイクロン被害とともに災害が続きますが、とりあえず再び募金活動など支援の継続を訴えます。

■現地からの最新情報■

13日日本時間10時40分、「NGO・KOBE・イスタンブール」からFAXが入り死者95名・倒壊家屋100以上・負傷者1597名、火事が多発、北アナトリア断層が2.5mずれたとのこと。イスタンブールのスタッフは4名が、今回の被災地に入っています。

先日お伝えしましたが、予定通り第4次派遣団を派遣します。さらに中・長期的な支援がますます必要となることが予測されますので、みなさまよろしくお願いいたします。

■トルコ北西部地震/台湾地震・緊急救援委 合同報告■(11月11日)

11月9日、神戸YMCAにてトルコ第3次派遣団、台湾第2次派遣団の合同報告会が開かれました。

■トルコ第3次派遣団報告内容■

10月22日から29日まで、当委員会委員長の村井を団長として8名を派遣しました。派遣団が撮影したビデオ上映、団員のレポートをもとに約2時間の報告会を行いました。(詳細は「報告書(中間まとめ)」を参照)
その後の委員会で以下のように今後の救援内容とその方向性が確認されました。

1. 「市民文化教育センター(仮称)」の建設支援
2. 仮設団地内に建設される「仮設保育所」・「子どものスペース」・「ふれあいセンター(チャイ飲み場)」などの支援
3. 冬対策として自主テントの支援
4. DEKMAKの活動拠点と運営の支援
5. 子ども達のテント「愛と望みのテント」の活動支援

あわせて、第4次派遣団を12月3日から12月10日の日程で派遣することを決定いたしました。
派遣団の目的は

1. デリンジェ地区における各支援プランの進捗状況確認
2. 公開青空ミーティングのような形態を他の地域にも広める
3. CCCの女性連合体が進める「女性の村」プロジェクトの進捗状況確認
4. CCCとの継続かつ有機的な交流を追求するための協議

なお、報告会の最後に「集まれ!!学生ボランティア'99」実行委員会で採択されたトルコ・台湾地震に関する"学生ボランティア宣言"が紹介されました。

全国各地の皆様からのご支援が約4,000万円に達しました。本当に有り難うございます。この募金は上記の1から5までの支援内容と今後予測される中・長期支援に配分頂きます。具体的な配分金額については、第4次派遣団で決定したいと考えています。

■台湾第2次派遣団報告内容■

11月1日から11月6日まで、当委員会の委員長の草地を団長として2名を派遣しました。報告書をもとに約1時間の報告会が開かれました。(詳細は当日配布した「第2次派遣団報告書」を参照)
その後の委員会では以下のことが決定、確認されました。
まず、トルコ委員会同様に常任委員6名が選出されました。
次に、今後の救援内容の方向性が確認されました。

1. 福亀小学校の再建支援について(南投市)
2. 横断的連絡調整組織の設立・運営のための支援
3. 被災者の自立をサポートする台湾希望工程協会(南投市)への支援

また、現地台中市に「外国人地震情報中心」という外国人のためのホットライン等で、サポートを行う多文化共生センターの田村氏より、台湾在住の外国人や、埔里などの山間部の地区に住む原住民への支援が必要と提案され、あわせて委員長から台湾における今後の復旧、復興に向けて有効な資料提供の必要性が提案された。

今回のレポートは、トルコと台湾の合同とさせていただきました。

現在の状況
これまでの流れ(地震発生～'99年10月)

連絡先 阪神大震災地元NGO救援連絡会議:ngo@pure.ne.jp
兵庫県神戸市兵庫区中道通2-1-10 被災地NGO協働センター気付 〒652-0801
TEL:078-574-0701 FAX:078-574-0702